

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 10 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009 ～ 2011

課題番号：21530964

研究課題名（和文）小学校音楽科における学力測定方法の開発

研究課題名（英文）The development of measuring method of academic achievements in the elementary school music

研究代表者

吉富 巧修（YOSHITOMI KATSUNOBU）

広島大学・大学院教育学研究科・名誉教授

研究者番号：20083389

研究成果の概要（和文）：

小学校学習指導要領・音楽科に明示されている内容を音楽科学力と措定し、それらを測定する方法を開発した。(1)学習指導要領・音楽科に示されている「音符・休符・記号など」についてはペーパー試験を開発し、試行した。(2)聴取力については、CDを用いる試験を開発し、試行した。(3)旋律に合う和音を選ぶ課題と階名を五線に記入する課題は、ペーパー試験を開発し、試行した。(4)視唱力を測定する簡易な方法の開発が緊要な課題である。

研究成果の概要（英文）：

Refined contents in Course of Study for Elementary School-Music as music academic achievements, We have developed the methods for measuring those music academic achievements. (1) About “Notes, rests and notational symbols” indicated in SYLLABUS DESIGN AND HANDLING THE CONTENT, we developed and trialed the paper examination. (2) About listening ability, we developed and trialed the examination for use in CD. (3) About tests selecting one appropriate cord correspond 1 bar of 4-bars melody, and notating syllable names on a five-line staff, we developed and trialed the paper examination. (4) It is very important task that we need to develop simplified measuring method of sight singing.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2010年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：音楽教育学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：教育学・教科教育学・音楽科・学力

1. 研究開始当初の背景

従来から、音楽科では学力問題が等閑視されてきた。その理由として、次の点が挙げら

れる。第1点は、音楽科の学力は、測定できるものよりも測定できないものの方が重要であると考えられていることである。一般的

に音楽科では、音楽の技能や知識よりも、音楽に対する豊かな表現力や鋭い感受性を重視する傾向にある。したがって、測定できる学力は音楽の本質ではないとして、軽視されてきたのである。第2点は、音楽が本来有している力を過大評価し、音楽活動を行ううちに表現力や感受性や音楽を愛好する心が自然に培われるという考え方が大勢を占めていることである。しかし現実的には、目に見える学力が習得されていないために、目に見えない学力まで育成できていないのである。第3点は、小学校学習指導要領・音楽科の目標や内容の記述が抽象的でおおまかであり、それゆえに音楽科の学力そのものがいまいいなものとして捉えられていることである。現行の小学校学習指導要領における音楽科の目標は、「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。」という抽象的な表現にとどまり、表現や鑑賞の領域の内容も、「音色の特徴を生かして、旋律楽器及び打楽器を演奏すること。」「曲想を全体的に味わって聴くこと。」などのおおまかな表現で記述されているものが多い。具体的な学習内容として記述されているのは「ハ長調及びイ短調の旋律を視唱したり視奏したりすること。」「長調及び短調の楽曲においては、I、IV、V及びV7を中心に指導すること。」という内容と、30の音符、休符、記号などのみである。

2. 研究の目的

本研究では、上記の背景に鑑みて、音楽科の学力を音楽行動に必要な知識・技能、及び表現力・感受性・感性・美的価値判断力などの総合されたものと捉える。音楽行動を分析することによってその背後に存在する音楽科の学力を特定することが可能になると考える。そして、国内外の過去や現在の学力測定法を検討し、音楽科の多様な学力を測定する方法を開発する。本研究で明らかにする具体的な内容は以下である。

(1) アメリカの音楽教育学者 T. A. レゲルスキの著書、*Principles and Problems of Music Education*, PRENTICE-HALL, 1975 に依拠して、音楽行動の領域とそれぞれの階層を明らかにする。レゲルスキは、音楽行動を「あらわな行動」と「あらわでない行動」の2つに分け、「あらわでない行動」をブルームの教育目標の分類理論に基づいてさらに「情意的行動」「認知的行動」「精神運動的行動」の3つの側面に分けた。それぞれの領域には下位から上位まで階層的に行動内容が配置されている。これによって、音楽科の学力構造がある程度明確化できると考える。

(2) ドイツの音楽教育学者 D. ヴェーヌスの

著書、*Unterweisung im Musikhören, Wilhelmshaven* Noetzel, 1984 に依拠して、彼が提唱してドイツの音楽科カリキュラム改革に大きな影響を与えた「音楽に対する5つの優先的な行動様式」(音楽の生産、再生産、受容、転換、省察)という理論に基づいて音楽行動を分析する。これによって、レゲルスキとはまた別の角度から音楽科の学力構造を明確化できると考える。

(3) イギリスの GCSE 音楽に着目し、その内容を詳細に検討する。イギリスの音楽科教育は、ナショナル・カリキュラムで規定されたキーステージに分けられている。音楽科はキーステージ3までが必修教科として扱われ、キーステージ4で選択教科となる。これらを終えた段階すなわち中等教育の義務教育修了段階に受験する資格試験が GCSE 試験である。GCSE 試験の音楽に関する評価方法と評価内容を記したものが GCSE 音楽シラバス (specifications) である。これを精査することによって、我が国の音楽科における学力測定法への示唆を得たい。

(4) 我が国で過去に行われた音楽科の学力調査の内容と調査結果を検討し、その特徴と課題を明らかにする。先述した2回の文部省による音楽の全国学力調査に加えて、昭和34年度の北海道中学校音楽科学力調査報告書や、岐阜県教育委員会による「音楽感覚段階別能力表」(昭和36年)及び「音楽基礎能力表」(昭和45年)などを分析・考察することによって、学力測定の具体的な方法への課題と示唆を得たい。さらに、岐阜県飛騨地方を中心として昭和40年代に盛衰した「ふしづくりの音楽教育」の学習方法と、その成果を具体的に測定した学力調査を精査する。

(5) 本研究者たちの属する各 *as music academic achievements* 県の小学校音楽科担当教員を対象として、評価法に関する大規模な質問紙調査を行う。これによって現在の音楽科授業における評価の実態を把握し、課題を明らかにする。

(6) 以上の研究を通して、音楽科の学力測定法を考案し、本研究者たちのフィールドにおいて試行・検討し、その有効性を明らかにする。

3. 研究の方法

本研究では、4つの研究方法によって研究を進める。すなわち、(1)音楽行動に関する理論的研究、(2)評価法・測定法に関する理論的研究、(3)広範囲な質問紙調査による音楽科授業における評価の現状把握、(4)音楽科の学力測定方法の開発と試行、である。

4. 研究成果

上記の4つの研究の方法のうち、(4)が本研究の成果として特に重要である。その具体

的な成果の内容は以下である。

- (1) 小学校学習指導要領・音楽科の「指導計画の作成と各学年にわたる内容の取扱い」に示されている「音符・休符・記号など」についてはペーパー試験を開発し、試行した。その結果、これらに関する系統的な学習がなされた傾向を認めることはできなかった。強弱記号等の演奏表現に関するものの得点だけが高かったからである。つまり、「音符・休符・記号など」は、歌唱や器楽などの演奏活動に必要とされるものだけが、付随的に教示されていたと考えられる。
- (2) 多様な聴取力については、学力の内容に対応した新曲等新たに作曲し、その演奏をCDに録音し、それをういた聴取テストを開発し、試行した。その具体的な内容は、現在学会誌に投稿中である。
- (3) 和音課題と階名を五線に記入する課題については、ペーパー試験を開発し、試行した。その具体的な内容は、現在学会誌に投稿中である。
- (4) 岐阜県飛騨地方を中心として全国に強いインパクトを与えた「ふしづくりの音楽教育」が、これまで言われてきた山本弘の尽力に加えて、山本と岐阜県師範の同期生であり、しかも飛騨地方の出身であった2人の盟友、中村好明・下通進平の協力と、古川小学校に「ふしづくりの音楽教育」が導入され実践された当時の音楽科主任、後の教頭・山崎俊宏と昭和42年から49年まで校長を務めた中家一郎の実践的貢献のたまものである実態を詳細に解明した。同時に、その衰退の経緯をも明らかにした。
- (5) 視唱力を測定する簡易な方法の開発が今後の課題である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計16件)

1. 吉富功修・三村真弓・伊藤真、わが国の小学校音楽科における学力測定方法の開発、教育学研究紀要(CD-ROM版)、57巻、査読無、2012、pp. 209-214
2. 三村真弓・吉富功修、岐阜県小学校音楽科における音楽能力調査に関する研究、教育学研究紀要(CD-ROM版)、57巻、査読無、2012、pp. 416-421
3. 吉富功修・三村真弓、「ふしづくりの音楽教育」の衰退と山本弘の主張、音楽文化教育研究紀要、24巻、査読無、2012、pp. 1-10
4. 三村真弓・吉富功修・四童子裕、北海道音楽教育の会の「二本立て方式による音楽教育」に関する研究—1960年代から1970年代の活動を中心に—、音楽学習研究、7巻、査読有、2012、pp. 67-76
5. 光田龍太郎・伊藤真・三村真弓、中学校・高等学校音楽科における聴取力育成プログラム開発のための基礎的研究—音楽を感受する能力測定方法の検討—、学部・附属学校共同研究紀要、40巻、査読無、2011、pp. 165-170
6. 四童子裕・三村真弓・吉富功修、戦後の日教組教育研究全国集会の音楽(芸術)分科会における実践報告の変遷—『日本の教育』を中心に—、音楽文化教育学研究紀要、22・23巻、査読無、2011、pp. 149-157
7. 吉富功修・三村真弓・徳永崇、中学校音楽科鑑賞共通教材 ベートーヴェン作曲 交響曲第5番 作品67 ハ短調 <運命>に関する研究、環太平洋大学研究紀要、4巻、査読無、2011、pp. 49-56
8. 三村真弓、岐阜県における「ふしづくりの音楽教育」萌芽期の特徴—『小学校音楽学習指導の手引き(音楽感覚段階別能力表)』を手掛かりとして—、広島大学大学院教育学研究科紀要 第二部、60号、査読無、2011、pp. 283-291
9. 三村真弓・伊藤真・大橋美代子・近藤知美・福田秀範・向井さゆり・神野正喜・松田道枝・川村恭子、音楽リテラシー育成のための基礎的研究(3)—サイレント・シンギングに着目して—、学部・附属学校共同研究、39号、査読無、2011、pp. 147-152
10. 三村真弓・吉富功修、わが国における音楽科学力調査に関する研究、教育学研究紀要(CD-ROM版)、56巻、査読無、2011、pp. 625-630
11. 吉富功修・三村真弓、小学校音楽科の学力に関する研究(2)—音符・休符・記号等の理解—、環太平洋大学研究紀要、3巻、査読無、2010、pp. 25-32
12. 吉富功修・三村真弓、小学校音楽科の歌唱共通教材に関する研究(1)—小学校における学習度に注目して—、教育学研究紀要(CD-ROM版)、55巻、査読無、2010、pp. 675-680
13. 吉富功修・三村真弓、小学校学習指導要領・音楽科に示された音符・休符・記号等の知識の習得状況—小学校音楽科における学力の一環として—、音楽教育学、39巻2号、査読無、2009、pp. 29-31

14. 三村真弓・吉富功修・大橋美代子・青原栄子・高旗健次・金岡美幸・池田明子・吉原知恵美・掛志穂・君岡智央・中山芙充子・井上由子・坪田志保・山中覚美・東加奈子・宮谷智子、幼・小連携の音楽カリキュラム開発の基礎的研究(3)ー斉唱時における子どもの歌唱能力の発達に着目してー、学部・附属学校共同研究、38巻、査読無、2009、pp.87-92

15. 三村真弓・河邊昭子・福田秀範・中村将之・青原栄子・大橋美代子・吉富功修・徳永崇・長澤希、音楽リテラシー育成のための基礎的研究(2)ー小学校音楽科教科書のカリキュラムの検討を中心にー、学部・附属学校共同研究、38巻、査読無、2009、pp.143-148

16. 三村真弓・光田龍太郎・松前良昌・桑田一也・吉富功修・高旗健次・藤井恵子、中学校における音楽科の学力を確かなものとする教育プログラムの開発(3)ー中学生の批評能力及び鑑賞能力に着目してー、学部・附属学校共同研究、38巻、査読無、2009、pp.167-172

[学会発表] (計13件)

1. 吉富功修・三村真弓、ふしづくりの音楽教育への胎動、日本音楽教育学会中国四国地区例会、2012・3・3、高知大学

2. 三村真弓・吉富功修、岐阜県小学校音楽科における音楽能力調査に関する研究、中国四国教育学会第63回大会、2011・11・20、広島大学

3. 吉富功修・三村真弓・伊藤真、わが国の小学校音楽科における学力測定方法の開発、中国四国教育学会第63回大会、2011・11・19、広島大学

4. 吉富功修・三村真弓、「ふしづくりの音楽教育」の衰退の要因と山本弘の音楽教育観、日本教科教育学会第37回全国大会、2011・11・12、沖縄大学

5. 三村真弓・吉富功修・四童子裕、北海道音楽教育の会の「二本立て方式による音楽教育」に関する研究、第7回音楽学習学会研究発表大会、2011・8・29、関西学院大学

6. Shin Ito, Mayumi Mimura, Katsunobu Yoshitomi, Kaoru Shidoji, Yoshifumi Nomi, A Study on the Development of Singing Ability in Young Children Singing in

Unison, PECERA, 12th Conference, 1st August 2011, Kobe Japan

7. 三村真弓・吉富功修、わが国における音楽科学力調査に関する研究、中国四国教育学会第62回大会、2010・11・21、香川大学

8. 四童子裕・三村真弓・吉富功修、戦後の日教組教育研究全国集会の音楽(芸術)分科会における実践報告の変遷ー『日本の教育』を中心にー、日本教科教育学会第36回全国大会、2010・10・2、弘前大学

9. 吉富功修・三村真弓・徳永崇、中学校音楽科鑑賞共通教材 ベートーヴェン作曲交響曲第5番 作品67 ハ短調 <運命>に関する研究、日本教科教育学会第36回全国大会、2010・10・2、弘前大学

10. 三村真弓・吉富功修、1960年代から1970年代における「二本立て方式による音楽教育」の盛衰に関する研究ー北海道音楽教育の会の活動を中心としてー、日本教育学会第69回大会、2010・8・21、広島大学

11. Mayumi Mimura, Katsunobu Yoshitomi, Shin Ito, Nien-Tzu Chao, Fei Wu, A cross-sectional study of the development of singing ability in children singing in unison - focusing on with or without musical accompaniment or performance feedback, PECERA, 11th Conference, 26 July, 2010, Venue in Aigrette Bay Narada Holiday Hotel, Hangzhou, China

12. 吉富功修・三村真弓、小学校音楽科の歌唱共通教材に関する研究(1)ー小学校における学習度に注目してー、中国四国教育学会第61回大会、2009・11・22、島根大学

13. 吉富功修・三村真弓、小学校学習指導要領・音楽科に示された音符・休符・記号等の知識の習得状況ー小学校音楽科における学力の一環としてー、日本音楽教育学会第40回大会、2009・10・3、広島大学

[図書] (計2件)

1. 吉富功修、ふくろう出版、改訂 幼児の音楽教育法ー美しい歌声をめざしてー、2011、pp.3-12・64-68・112-126

2. 吉富功修、ふくろう出版、小学校音楽科教育法ー学力の構築をめざしてー、2010、pp.3-5・14-17・97-100・145-158

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

吉富 巧修 (YOSHITOMI KATSUNOBU)
広島大学・大学院教育学研究科・名誉教授
研究者番号：20083389

(2) 研究分担者

三村 真弓 (MIMURA MAYUMI)
広島大学・大学院教育学研究科・教授
研究者番号：00372764

水崎 誠 (MIZUSAKI MAKOTO)
東京学芸大学・教育学部・准教授
研究者番号：50374749

藤原 志帆 (FUJIHARA SHIHO)
熊本大学・教育学部・准教授
研究者番号：20381022

伊藤 真 (ITOU SHIN)
広島大学・大学院教育学研究科・講師
研究者番号：70455046

小長野 隆太 (KONAGANO RYUUTA)
鈴峯女子短期大学・保育学科・講師
研究者番号：60452603

緒方 満 (OGATA MITSURU)
比治山大学・現代文化学部・准教授
研究者番号：20512297

近藤 裕子 (KONDO YUKO)
環太平洋大学・次世代教育学部・准教授
研究者番号：50461265